

小川サケ有効利用調査委員会 設立趣意書

富山県朝日町に流れる二級河川 小川は、雄峻なる北アルプス北端の一角を担う朝日町山崎の定倉山に源を発し、一級河川 黒部川などの他河川とともに、豊富清冽なる水と肥沃な農作物に恵まれた扇状地である新川平野を形成し、母なる日本海に流れる、山紫水明にして雄大なる自然環境に囲まれた、豊かで清らかな川であります。

古来、小川流域である朝日町は、この恵み豊かな自然のもと、文化の黎明を告げ、今日に至ります。

縄文中期に始まり、日本最大級の竪穴式住居が発見された不動堂遺跡。後白河法皇の皇孫 北陸宮を宮崎城に迎え入れて繰り広げられた源平の戦い。加賀藩の統治下東端にあつて関所が設けられ、街道筋の要衝となり、宿場町形成がなされるなどの悠久の歴史の中で、洪水・氾濫による幾多の水害とともに豊かな自然からの実りが育まれ、生活が営まれて続けてきた文化があります。

小川から放流されるサケは、国を超え、海を越えて地球規模の大移動を繰り返し、やがて母なる小川へと帰る、大自然からの尊い生命が育む貴重な水産資源であります。

私たち、小川サケ有効利用調査委員会 設立有志は、小川と人々との繋がりにより育まれ続けていた、雄大な自然と文化に思いを致すとともに、サケの有効利用調査を通じ、美しく豊かな自然環境と水産資源の恵沢の確保と、適正かつ有効な利活用を図ります。

また、貴重なサケを次世代に継承するとともに、地域資源としてのサケを通じ、町、県を越えた新たなる交流人口の向上、経済活動の振興創出及び水産業の健全なる発展を期し、小川サケ有効利用調査委員会をここに設立するものであります。

平成27年4月28日

小川サケ有効利用調査委員会